

テーマ	単純個別原価計算（製造間接費会計）				
学籍番号	/	/	/	/	氏名

1. 次の資料に基づき、(1) 月間基準操業度、(2) 予定配賦率、(3) 当月の予定配賦額、(4) 予算差異、(5) 操業度差異を計算しなさい。

【資料】

- ① 当工場には機械設備が 4 台あり、1 日 3 交代制で 24 時間稼働させている。
- ② 年間稼働日数は 240 日、年間の不可避免的な作業休止時間は 2,040 時間である。
- ③ 当工場では機械稼働時間を配賦基準として製造間接費の予定配賦を行っている。なお、製造間接費予算は実際の生産能力に基づいて算定している。
- ④ 製造間接費予算は公式法変動予算により設定しており、年間変動費予算額は 1,470,000 円、年間固定費予算額は 3,780,000 円である。
- ⑤ 当月の実際機械稼働時間は 1,680 時間、実際発生額は 438,400 円であった。

(1)	1,750	時間
(2)	250	円/時間
(3)	420,000	円
(4)	5,800	円 (不利・有利)
(5)	12,600	円 (不利・有利)